

第 2790 地区 R L I 卒後コース記録

2024年5月11日（土） 千葉市民会館





開講式

司会進行 RLI 推進委員会 委員 松岡 邦佳（木更津東 RC）



御挨拶 RLI 推進委員会 委員長 清田 浩義（千葉 RC）

あらためて皆さんこんにちは。今日は少し早く始まりました。本来、ご案内にあるように、鶴澤ガバナー、梶原地区代表委員、御挨拶を頂くところですが、梶原さんは、少し遅れてお見えになるということで、あります。ガバナーについては、今日は御欠席ということでもありますので、私から皆さんに御挨拶というか、お話を少しさせて頂いて、この後、パネルディスカッション、青木実行委員長にコーディネートして頂いて、パートシリーズの振り返りということで、皆さんとパネルディスカッションをしていきたいと思っております。その後、卒後コースのテーマとして、一時限目、二時限目、4つのグループに分かれて頂いて、部屋を分かれて、この部屋でAチーム、Bチーム、そして、4階の第1会議室、第2会議室ということで、4つのグループに分かれて頂いて、セッションテーマ、「ロータリー歴史」それから「クラブを元気にしよう」というテーマですね、皆さんと話をしてほしいと思っておりますので、それぞれ、今日は実行委員の皆さんにもお越し頂いておりますが、パートシリーズに参加されて、パートIIIまで終わられた皆さんへですね、パートシリーズやって、最後に懇親会に、お出でになった方には、パートシリーズが、こんな感じで、自分としては、いろんなことを感じられたという、こんなお話をさせていただきましたけれども、卒後コースについては、パートシリーズでなんとなく、もやもやしているところとか、ロータリーのパートシリーズのなかで、まだ話ができなかった部分みたいところを、是非、この二つのセッションを使って、皆さんと、話し合いたいというふうに、思っています。この第2790地区はですね、この卒後コースは。ところで、皆さん、テキストは持っていらっしゃいますか？持っていない人は、何人ですか？お一人？素晴らしい。（会場 テキスト持ってこない人、ゼロ人）持ってこないと思って、テキストを用意したのですが。テキストを御覧頂きながらですね、今日は自由に。パートシリーズのところまでは、なんとかパートシリーズを、最後まで成し遂げようというような、そういう思いで、御参加いらっしゃったかもしれませんが、卒後コースからはですね、実行委員の皆さん、我々を含めて、同じ仲間。そんな感じで、より自由にお話を頂ければと、というふうに思っています。最後の頁、後で青木さんからもご案内あるかもしれませんが、Aグループから、ABCDという4つのグループに分かれて頂いて、それぞれ、御参加の皆さんで、ここに書かせて頂いたような、グループ編成で、させて頂きたいというふうに思っています。Aチームについては、私（清田浩義）が、リーダーをさせて頂いて、Bチームについては、周藤 行則さんに



リーダーをして頂きます。Cチームについては、青木 洋明さんにリーダーをして頂きます。Dチームについては、松岡 邦佳さんに、お願いして頂きながら、楽しくセッションを進めていければというふうに思っています。話しは最後になりますが、今日、ここに御参加頂いた方は、間違いなく、その次の、FT 養成コースに出るという確約を頂いたというふうに、思いますし、FT 養成コースを経て、晴れて、ファシリテーターとして、来年の、9月からがパートシリーズですけれども、あとでまたご案内あると思いますが、7月8月と、ブラッシュアップがあって、そして9月から、パートシリーズということです。



大木さん（地区幹事長）は、ふらっと来ちゃいましたけれども、大木さんも FT 養成コースまで、御参加頂けるということで、

大木 英之 地区幹事長 もちろんです。



あーっ。ありがとうございます。はい。（会場 拍手 拍手）お忙しいところ、そろそろお役の最後が近づいて、お忙しい中、お越しいただきました。是非、またこれからも、お付き合いをお願いしたいと思います。それでは、私から、御挨拶と今日の流れについて、お話をさせて頂きました。今日は、ちょっと時間が短いですが、楽しく進めたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございます。（会場 拍手 拍手）



本日の趣旨説明 RLI 実行委員会 委員長 青木 洋明（千葉北 RC）

みなさん。こんにちは。こちらのほう、ちょっと中身が変更になっている点が何点かございますので、お知らせ致します。

A グループ 船橋南 RC 田中 一邦

B グループ 市川南 RC 石引 美貴

C グループ 千葉みなと RC マイケル 鈴木

に、入りますので、よろしくお願い致します。

欠席 C グループ 成田 RC 成島 陽子

本日はですね、Cグループの成田 RC の成島さんが、欠席していますが、後は全員参加されていますので、よろしくお願い致します。部屋割りなのですが、AグループとBグループの方はですね、こちらの特別第二会議室のほうで行いますので、Aグループの方は、こちらのほうになりますので、ディスカッションが終わった後に、島をつくってもらって、Bグループの人は、左端ですね。あちらのほうに、島をつくってもらって、AとBだけこちらの部屋のほうになり



ます。Cグループは、Dグループの方はですね、4階の第一会議室が、Cグループ。第二会議室が、Dグループ。ということで、4つに別れて、チームを行う予定です。中身はですね、この後パネルディスカッションでですね、いろいろファシリテーター達の体験談を5名の方に、お話を聞いてですね、その後、15分後に休憩をとって、第1限目のセッションテーマですが、こちらのほうは、「ロータリーの歴史」ということで、ロータリーの歴史は、非常に、理念委員会とか、いろんなところでやったと思うのですが、こちらのほうに、皆が知っている知識を、グループディスカッションして、頂ければと思っています。第2時限目ですね、こちらのほうは、「クラブを元気にしよう」ということで、クラブ活性化の手順というところを中心に議論する予定です。具体的、ロータリー歴の浅い方が歴史というのはちょっと、知らない方も非常に多いと思いますが、経験のあるベテランの船木さんとか、経験のある方はですね、非常に得意分野なのかなというふうに、思いますので、是非、良いグループディスカッションになればなあというふうに、思います。2時限目の方は、クラブを元気にしようということで、皆さんのクラブで、今取り組んでいる、どういう風にしたら、クラブが、会員増強もできて、奉仕活動のできるような、良いクラブになるかというのを、議論して頂ければなあというふうに、思っております。一応、こちらのほうが、4時30分まで、行う予定です。4時40分から、閉講式のほうをして、こちらのほう、5時20分に、終わりますして、懇親会、今回出れる、出られる方はですね、5時45分から、懇親会のほうを開始したいと思います。

是非、よろしく願いいたします。

パネルディスカッション

「2023-24年度パートシリーズの振り返り」

～ファシリテーターとしての体験談～

パネリスト

千葉東 RC 坂下 雅紀

木更津東 RC 松岡 邦佳

千葉中央 RC 矢野 憲治

松戸西 RC 山本 衛

浦安 RC 周藤 行則

コーディネーター

RLI 実行委員長 青木 洋明（千葉北 RC）



青木 洋明 自己紹介をお願いします。



周藤 行則 皆さんこんにちは。私は浦安 RC に所属しております周藤 行則と申します。ロータリー歴は、9年から10年ぐらいです。クラブの役職は、次年度、親睦委員長を仰せつかりまして、今年度は、SAAをやっている、その前は財団委員長をやっていました。2年くらい前に、浦安 RC の会長を経験しております。



山本 衛 松戸西 RC の山本 衛と申します。よろしくお願いいたします。現在の役職は会長エレクトです。次年度会長になる予定です。ロータリー歴は10年か、11年か。そんなところだったと思います。RLI 推進委員になってから、この RLI を覚えたというか、運営に携わるようになりました。議論下手だったので、今でも下手なんです、すごく勉強になっております。よろしくお願いいたします。



矢野 憲治 はい。みなさんこんにちは。(会場 笑)私、先走る癖がありまして、申し訳ありませんでした。千葉中央 RC の矢野憲治と申します。ロータリー歴としては、6年と5カ月程度です。実質、この顔みたらわかると思うのですが、70才になって、ロータリアンになりました。今年度ですね、幹事をやらせて頂いております。そして来年度は、副会長および、プログラム委員長と。ということは、次々年度は、会長という。そういうふうな、役職を拝命するつもりでおります。また、次年度ですね、この RLI の、実行委員の委員のほうにも、地区のほうに出させて頂いていると。というところでございます。皆さん、よろしくお願いいたします。



松岡 邦佳 木更津東 RC の松岡と申します。ロータリー歴は、12年目だと思っております。クラブでの役職としては、幹事をやって会長をやって、たぶん使えなかったんで、もう一回、今年幹事をやれと。そんな感じです。RLI で、僕は、



こちら辺と同じで、僕は12期、期というのがありまして、第12期で、「花の12期」と、裏では、「ブラック12期」と、(会場 笑)呼ばれている、ここ3人、そうだと思います。是非、よろしくお願いいたします。



坂下 雅紀 千葉東RCの坂下正紀と申します。会員歴は、先程、手で数えたのですが、今、7年目になりました。幹事を仰せつかったときに、ロータリーよくわからなかった。誰も教えてくれない。というところで、当時、ガバナー補佐であった清田さんにお誘い頂いて、RLIを初めて参加させて頂きました。来年は、会長になりますので、いろいろここで教わったこと、皆さんから教えてもらったことを、軸に、来期は、会運営をしていけるように、なりました。以上です。



青木 今日はですね、5名。こちらのほうに、パネリスト、ということなのですが、周藤さんは、Eチームのリーダーで、山本さんが、Bチームリーダーで、松岡さんがCチーム。坂下さんがAチームのリーダーとして、やってもらっています。矢野さんは昨年FT養成コースを取ってもらって、今年、デビューして、頂いた方ということで、是非ですね、皆さんにファシリテーターを、養成コースを取ってもらって、ファシリテーターになってもらいたい部分がありましたので、今回、お呼びしました。今回、RLIを受講したきっかけというのが、たぶん、皆さんもいろいろな動機で、こちらのほうのプログラムを、受講されたかと思うのですが、当然、ファシリテーターの方もはじめは、皆さんと同じような気持ちで受講されたと思うのですが、それをちょっと、聞いてみたいかと思うんですが、周藤さんはRLIを受講するきっかけはどういったきっかけだったのでしょうか。話して頂けますか。



周藤 当時、何も考えておりませんで、ウチのクラブの先輩の方が、「今度のいついつ、空いているか？」と言われてまして、「空いてます。」と言ったら、「じゃあ、ウチへ来い。朝、何時だぞ。」と言って、「車に乗せてやるから、一緒にどっか、行こう」という形で、(会場 笑)いわゆる拉致みたいな(会場 笑)ですね、それがパートシリーズから、FTかDLですが、養成コースまで、全部、乗っけて行ってやるから。ということで、「NOは無し。」という感じで、そのまま、スーっと。FTまで、なったという経緯です。



青木 はい。ありがとうございます。受講生の皆さんも、たぶん、先輩に、これ、出ろと言われて、強制的に参加されたと言う方、いらっしゃいますか？手を挙げていただけますか。はい。一人、いらっしゃるということで。まあ、きっかけはですね、何がなんだかわからないのだけれども、とにかく、これ受けろと。

という形で参加されるケースが非常に結構、多い。というのが、現実です。現状ですね。そうしたら、山本さんはどういうきっかけで、受講されたのか。ちょっと、言って頂けますかね。



山本 自分は、先輩が受講する予定だったんですね。先輩が受講する予定で申し込みもして、お金も振り込んで、でもどうしても当日行けなくなってしまったということで、「1回だけでいいから、代打で行ってこれ。」と、言われてまして、1回だけ来ることになりました。ところが、1回だけ来てみたところ、後に先輩が、これは、DL養成コースまで、5回でセットだから、「全部出るように。」(会場 笑)と、言われてまして、気が付いたら、取っておりました。



青木 はい。ありがとうございます。そういう方も、やっぱり先輩が出れないから、代わりに出ると、ということで、出たのがきっかけで、今に至っているというケースですね。そうしたら、矢野さんは、こういった形で受講するきっかけは？



矢野 はい。私の場合は、皆さんにお話するとショッキングな話かもしれませんが、先程も自己紹介で申し上げたとおり、70才という歳で、ロータリアンになったわけですね。ということは、おそらく、普通よりは高年齢で、入った。そして、そうなったときに、人生経験としては非常に豊富な立場で入ってきている。ということになるかと、思ってね。こういう人生経験が別として、そして私自身が、やっぱりロータリーというものが、どんなものなのか。全然入った時点で、3年くらいかな。全然、わからなかった。こんなつまらない、会議に、よくみんな、高い金をつかって。本当。だって、ホテルで飯食って、つまらない卓話しか行わない。これ、正直な心の声。(会場 笑) そういうふうな思いでですね、どっちかというたら、引いた形で、ロータリー生活を3年くらい、やっていたんですが、「これは、辞めな仕方ない」など。これは、僕と価値





観が違ふと。というような思いがあったので。でも、せっかく入った以上、ロータリーの事を何もわからずに、辞めてしまうのは、これちょっとね、人間として、卑怯ではないかと。ということで、RLIというものがあると。ということをお聞きしてですね、それで参加させてもらったと。これが、後でも言おうとおもうのですが、ハマっちゃったんですね。(会場 大笑)こんな恐ろしい事、人生あるのかなと思うんですが、本当にもう、退会届を出す寸前まで行った男が、なんだか、RLIにこうやって、実行委員までなって、なおかつ、幹事やって、会長までやって、人生って面白いんですね。って、いうところですかね。



青木 はい。矢野さんありがとうございます。そしたら、松岡さん。どういったきっかけで。入られましたかね。



松岡 はい。たぶん、私の年度って、いらっしやらないと思うのです。僕は、まず、RLIに参加する前に、「地区の委員になりたい。」と言ったら、RLI委員会に配属されてしましまして、RLIに参加したこともないのに、推進委員になったんです。(会場 笑)で、よくわからないんです。なので、流石に、参加したことがない奴が、委員会のメンバーって、役に立たないので、じゃあ、これ参加するしかないだろうって。とはいえ、ここの設営もあるんで、とりあえず、僕は、第2590地区、横浜・川崎地区のRLIに参加して、これで良いんじゃないかなと思っていたら、委員会から、第2790地区のほうを受けろということで、こちらのほうも、受けたという。だから、先に委員会のメンバーになっちゃって、仕方がないから、委員会のメンバーで、受けていないのは、まずい。流石に、これはまずい。ですよ。なので、仕方なく、受けざるを得なかったのが、正直なところです。



青木 はい。松岡さん、ありがとうございます。松岡さんはですね、これを受ける前に、推進委員になってしまったと。みんな受けていて、自分だけ受けていなくて、これは、まずいなど。いうことで受けたんですね。きっと。ちょっとレアなケースになっております。そうしたら、坂下さんは、どういったきっかけですか。



坂下 はい。先程お話しさせていただきましたが、なにもわからない状況で、幹事をやると。ということもできず、やはり、ロータリーというものが、どういふものなのか。という事を、こちらに参加させて頂いて、少しずつ、わかってきたかなと。という事が過去、参加させて頂いたきっかけでした。以上です。

青木 はい。坂下さん、ありがとうございます。坂下さんも、幹事になる前、ですかね、こういうのがあるよ。ということで、勧められてはいったというこ



とで、非常に皆さんの中でも、会長、幹事前に、こういうプログラムがあるんで、受けてみないかと言われて参加されたという方が非常に、多いかと思います。最終的にはですね、こちら6名の皆さんはですね、みんなドはまりを、したということで、RLIの魅力というのは、どんなものなのか。魅力っというの、どういう事か。ということ、周藤さんのほうから。魅力を話して頂ければなというふうに思います。



周藤 あの一。魅力の一番は、本質ではないのかもしれませんが、自クラブだけにいると、あまり刺激がない。といいますか、おとなしい、ちゃんとした人の集まりなんで、そうなのかな。っというふうに、思っていたのですが、RLIに来てみたら、各クラブから、色々な個性を持った方が、集まっていっちゃって、そこで、自クラブにはない魅力、といいますか、より何か得るもの、があるところが、私のなかでは、一番の魅力です。ですから、今日も、早く終って、懇親会。始まらないかなと。(会場 笑) というような、そういう不謹慎な感じで、で、二番目は本質の部分になるのですが、

受講したときもそうですが、ファシリテーターを仰せつかってやったときに、このセッションは、どういう主旨で、どういうふうに進むのか。それから、このセッションで、例えば、私が今回仰せつかった、財団とかやって、財団って、どういうものか、というのを、ある程度、知らない、ちょっと自信をもってできないし、そこを、何か、いろんな、RIの、各委員会とか、各行事、というものは、どういうものかなというのを、知るきっかけを、頂いたのが、RLIかなと。というふうに、思っていて、これが、本来の一番の、理由になるのかなと。とうふうに、考えております。



青木 はい。周藤さん。ありがとうございます。そうしたら、山本さん。RLIの魅力とは。



山本 はい。クラブでも、仕事でも、話をするとなりますと、だいたい話をするとなると、相性だったりとか、好きな方とかと、話をしたりとか、あと、仕事ですね。仕事があるから、話をするとか。そんな事が多いのですが、RLIの場合は、好きとか、嫌いとか、仕事とか、あるなしにかかわらず、全員と話をしていないといけないんですね。全員に、これについて、どう思いますかと、全員に意見を聞くことが、できるので、こういう機会というのは、なかなか、ないと思うんですね。全員の機会を聞いて、自分は黙っているんですが、こういう問題があるんだとか、こういう先輩は、こういう事を考えていて、ロータリーに臨んでいるんだな。とかですね、いろんな考えを聞けるところが、楽しいところだなど。普段、深く聞けないところが、ここでは聞ける。と。そこが、魅力だなど。思っております。

青木 はい。ありがとうございます。矢野さん、どうですか。



矢野 私は、この RLI って、おそらく皆さん方も、自クラブで、自分自身のクラブで活動したり、お友達ができたり、仲良くなったり、というものが、必ずあるはずなんです。で、そのうえに RLI となった場合に何が違うのかと。よくよく考えてみると、RLI に参加しようとする人って、やっぱり、人生の学びとかいうものを、求めようとする人たちだと、私は思っている。で、そういったときに、やっぱり自分自身が、そういう思いがあれば、波長が合う人が、集まるんですね。そりゃあ、楽しいですよ。人生を語り合える、友人と出会えるという事と、近いわけですから。やっぱり、僕はその、魅力こそが、RLI の魅力ではないのかなと、私は、思う。そういう事で、ハマりました。という事ですかね。

青木 はい。ありがとうございます。松岡さん、どうですかね。



松岡 はい。なにか、立派な答えが、3つ続いたなかで、(会場 笑)
たぶん、わたしの事を知っている人は、「こいつ、たぶん、ろくでもない事を言うんだろうな。」と、というところで、まあ、ろくでもないことを。(会場 笑)
坂下さんは、どういふか、わからないのですが、たぶん、このディスカッション、この3人で良かったのかなと。というように、本音の部分でいうと、財団を勉強したからって、なんとなくは、わかっているのですが、じゃあ、細かいことを、わかっているかという、会長をやってもわかっていないという。規定審議会も、よくわからないし。RLI 参加しても、じゃあ、少しは勉強になったと思いますが、じゃあそれを、なんとなくは、わかったけれども、なんとなくしか、わかってないと。で、ただ、RLI に、出て良かったなというのは、私、第5グループなんです。たぶんここにいる人達と、RLI に出ていなければ、たぶん、一生会う事はなかったんだろうなと。ということが、ひとつと、特に実行委員になっていると、初中顔を合わせて、気心も知れている。そういう人が、多くなったなと。というところに、魅力を感じているのと、あとはですね、良いことを言おうと思ったのですが、忘れてしまったので、たぶん、僕の忘れたぶんは、坂下さん、よろしくお願ひ致します。(会場 笑)

青木 はい。松岡さん、ありがとうございます。坂下さんどうですかね。



坂下 前の方々、同じようなことになってしまいますが、やはり矢野さんがおっしゃられるように、ここに来られるということは、やはり、わからない事だとか、そういったことがある皆さんで、それを我々が、ファシリテートするなかで、我々もわからない、他のクラブも、活動状況だとか、その考え方だとか、いろいろ勉強になる部分が、ロータリーだけではなく、自分が生活しているなかの、役に立ってきているなど。というときに、最近はちょっと、感じている

ところが、RLIを受けたことでも、魅力であったなあと。今、思いました。
以上です。



青木 はい。坂下さん、ありがとうございます。皆さんがそれぞれ、魅力が違うのですが、受講生の方も、RLIを受けて、非常に魅力を感じたという方が、たぶん、いらっしゃる方もいると思うのですが、なにか、今、言われた方、以外の意見で、魅力を感じている方、いらっしゃいますか。マイケル鈴木さん、どうですか。



(会場より マイケル 鈴木) そうですね。パネラーの皆さんと、たぶん同じだと思っんですが、やっぱりいろんな人と、いろんな話しができて、いままで例会のなかで、他クラブに、例会に参加させてもらったりするなかで、名刺交換したりとかしてですね、なんというんでしょう、少し話をして、あとから振り返ると、名刺と、顔と名前が、一致しないことが、多いんですが、このRLIの良い所は、ディスカッションして、50分小さなグループで、いろんなコミュニケーションをする、それが、3回、4回、5回と、なっていくと、お互い、どのクラブで、どんなことをしているだとか、そういうことが、わかる。たぶん矢野さんが仰られる事と同じで、そういう、方々と、いろんな形で、通常の例会よりも、ずっと深く、交流ができるというところが、私的には一番、好きなどころです。



青木 はい。鈴木さん、ありがとうございます。鈴木さんはですね、入会4か月目で、RLIを受講されたということで(会場 大笑)最短の、資格取得者ということで、1年経っていないうちに、取ってしまった。取得してしまったということで、で、次の翌年は、幹事をやられるという。ことで、活躍をされているということで、非常に、魅力を感じたという話になります。そうしたらですね、RLI、FTを取得して、役立ったことが、何かあれば、聞いてみたいと思うんですが、周藤さん。何か、役だったこと、ありますか。



周藤 はい。一つあります。それはですね、もともと自分の考えというのは、自分の中で論理的に、理屈を考えて、これが正しい。これが間違い。というふうに、物事をスパッ。すぱっ。と、やっていくような、仕事をずっと、いていたものですから、正しい方向に、いくんだ。というような、方向性だったんですが、RLIを受講して、みなさんそれぞれの、考え方を聞いて、それから、なおかつ、自分がFTになって、前に立って、皆さんに話を振っていったときに、自分の想定とは、全然違う考えとか、自分の主観とは違うものを、みんな持っているということ。を、その場で、体感するんですよ。そうなってくると、それは結果的にはですね、自分の包容力というんですか、いろいろなことを、自分とは違う考えの人も、なるほど。と、自分の意識のなかに、素直に取り入れ



られて、いくという、少し、大人の、マインドを、ちょっとだけ、ほんの、ちょっとだけ、持てるようになってきて、で、私のロータリーの仲間が、周藤さん。変わったよね。って、言ってくれたときに、内心、RLI 受けて、良かったな。というふうに、思ったふうに、感じております。

青木 周藤さん。ありがとうございます。そしたら山本さんは、どうですか。RLI 得て、役だったこと。



山本 ウチの会社でも、ウチの業界でも、会議をしても全然、いままでは、RLI に出る前は、議論が弾まなかったんですね。ちぐはぐな議論ばかりしてたんですが、RLI に出て、FT、DL の技術を覚えてから、一回、会議に臨んでみたんですね。発言者全員に、一人一人、意見を出させて、「A さんの意見について、あなたは、どう思いますか。」と、A さんについての意見を一通り聞くと。「B さんは、こうやって思っているけれども、B さんの意見は、どう思いますか？」と。一通り、この RLI の DL の手法ですね。FT の手法を、使って、業界の会議とか、会社の会議をしたときに、すごく、議論が弾んだんですね。「どうしちゃったのかな？」と。それぐらいのことを、言われたことがありまして、「ああ。役に立ったんだな。」と、この DL の技術が、こんなに、みんなの意見を引き出すことが、できるのだなと。「RLI に出て来て、よかったな」と。そのときに、初めて、思いました。



青木 はい。ありがとうございました。山本さんは、ロータリー以外でも、仕事でも、使えたということで、そういったような、メリットがあったということですね。

山本 はい。そうです。

青木 そうしたら、矢野さん。どうですか。



矢野 非常に素晴らしいですね。仕事にまで、影響を及ぼす、FT の力。てね。素晴らしいなと思っています。なかなか私はねえ、こう見えて頑固なところがありまして（会場 笑）やっぱり一つの会社を引っ張っていかうとすると、どうしてもトップダウン。ということで、一方的にしゃべくりまくる。これ、私の、非常に特徴であって、それによって今、37 年目の会社を維持してきているというのは、現実なんですよ。でも、この FT になると、私の一番、苦しいのは、「喋ってはいけない。」（会場 大笑）これはねえ、苦しいですよ。ねっ。そのなかで、やっぱりじっくり人の話を聞く。でも、その人の話を聞く中で、その人の考え方って、「ああ、なるほど。こういうふうな。」って。先程もありましたけれども、理解していく。そういった事を、ワンステップ、自分自身で、良いことだなと思うんですが、これがねえ、たかだか 1 年や 2 年では、治らないですね。（会



場 笑) いまだに、FT やっていて、苦しいです。(会場 大笑) でも、人の話を聞くのが、楽しいということは、わかってきたかなど。ということは、今後、まあ、あと何年、この歳ですから、できるかわかりませんが、逆に会社でも、人の話を聞いて、「うん。うん。なるほど。」って、言ってあげられるような、心の広い、社長に。今は、社長ではないですけども、そういう、人間になっていければ、この FT の力というのは、わかってくるのかなど。でもね、人間の心って、そうは簡単にはいかないですよ。(会場 笑) といのが、本音でございます。



青木 矢野さん。ありがとうございます。たぶん、矢野さんの FT やっているときに、隣の部屋が以上に盛り上げ合っている (会場 大笑) など。隣の部屋人って、感じているケースが、あったんじゃないかと、思うんですが。声が非常に通る方なので (会場 大笑) 非常にわかりやすい、説明、ありがとうございます。そうしたら、松岡さん。どうですかね。役立ったことは、ありますか。



松岡 はい。そろそろ飛ばされるかなど。(会場 大笑)
こいつは、当てたら、やばいと。たぶん、FT やっていると、そういうこと、この順番でやっていたら、この人、変な事答えそう。とか、思ったりする。それが、僕に、なっているのかなど、思ったのと、矢野さん見てて、苦しいとか言ってみましたけれども、平気でウソをつけるようになるんだなって、(会場 大笑) まあ。そういう冗談は、置いといて、私も、仕事の、本音を引き出さなければいけない、色々相談を受けて、言っていることは、こうなんだけれども、本音はちょっと、違うところを、持っている人に対して、本音を引き出さないといけない仕事をしているので、そういったところに、仕方を変えたり、いろいろ、問いかけ方とか、うなずきかたを変えて、本音を引き出すところというところに、役立っているなどというのに、本当に思います。資格を取ることによって、マイナスの評価というのがあると思うので、それはちょっと、ここでは言いませんので。僕が言っているマイナスではなくて、FT の資格を取って、こんなに困っているんだというクレームも結構入っていますので、それは、ちょっと、後で、こそっと、(会場 笑) 教えたいと思います。

青木 はい。松岡さん、ありがとうございます。坂下さんはどうですか。



坂下 私、こう見えて、パワー系なんですけど、パワー系には、やはり限界が来ると。というのを、この RLI、受けて、ここに書いてありますけれども、やはり、人の意見というものを、寛容に、受け入れられるように、なりつつあるのかなど。やはり、パワー系一本では、まとまるものも、まとまらない。ただ、パワー系でやらなければならないとしても、あったりはするんですが、そこで、急には変わらないと思いますが、やはり、「気付き」というところでは、役に立ったな

あと、というふうに感じます。以上です。



青木 はい。坂下さん、ありがとうございます。そうしたら今度は、RLIのFTを取得して、自分の自クラブにどのような、影響を得たか。これをちょっと、聞いてみたいと思うのですが。周藤さんの浦安RCで、RLIを受講してFTを取得して、なにかクラブとして影響を受けたことはございますか。



周藤 そうですね。クラブのなかで、若干意見の対立があった場合に、できるだけ、お互いが、理解できるような、合意点を探そうと、そういうような、意欲のバックグラウンドにはなったかなと、というふうに、思っておりますし、あとは、仕事の関係でもそうですかね。自分が正しい、ことは、皆さんに、お伝えしているつもりでも、また違った考え方とかあったときに、それを、一旦自分で、考えて、また、理解してもらえそうな形に、余裕をもって、話しを戻すというような、FTの役割をちょっとは、役に立ったかもしれない。ということですね。



青木 はい。周藤さん、ありがとうございます。山本さんは次年度会長ということで、RLIでFTを取得して、自分のクラブにどういうふうに、使っていくかと。考えを聞いてみたいと、思います。



山本 RLI。自分はすごく満足して、クラブに浸透してほしいと、本気で思っているのですが、RLIに、自分が参加したことによって、良いことがあった反面、悪いこともあったんですね。良いことを先に言いますと、2～3人の先輩が、RLIに出てきてくれて、DLの資格を取ってくださったんですね。どちらかというと、出てきてくれる先輩なんで、すごく助かっているんですが、悪いところは、その反面ですね、「絶対に、出てこない。」と。絶対に出てきたくない。という、そういう方が、結構、出てきたというのが、悪いところでした。どうしても、嫌いな方は、絶対に出てきたくない。と、そういう方がいらっしゃるんで、そういう方は、いくら説得しても、絶対に出てこないですね。逆に、出てきたい。という方に、一生懸命、出てきてもらったほうが、いいなと、思いまして、良い面もあったけれども、ちょっと悪い面もあるのかなと。研修が嫌いな人は、やっぱりどうしても、いくら誘っても出てこないんだなと。それを痛感しました。



青木 山本さん、ありがとうございます。そうしたら、矢野さん、今幹事をやられているということで、クラブでどうやって使っていくかということで、聞いてみたいと思います。

矢野 はい。ちょっと難しい議題なので、このファシリテーターの資格という



のは、経験して、クラブに活かそう。というのは、本当にねえ、滅茶苦茶難しいです。なぜかという、この、おそらく皆さんもそうだと思って、各クラブには、その歴史があるんです。歴史があるということは、それぞれ習慣だとか、因習だとか、悪かろうと、良かろうとね、そういったものが根付いているところに、インパクトを与えるような、動きというのは、そりゃあねえ、いくら FT の資格を私が取ったとはいえ、そうは簡単に動くものではないなど、というのが、まず、第一。だからこそ、私は、まずは、FT の資格云々よりも、RLI にかに、例えば、私共のクラブは弱小でございます。現在 25 名です。25 名のうちの半数が、RLI という任に、入って頂いて、おそらくそのうちの 8 割ぐらひは、ハマって頂ければ、こりゃ環境が違って来るんですよ。ということは、そういう環境づくりを、まずは RLI の機会によって、することによって、その仲間と FT の力で、クラブ改革というのが、僕は、そういうところから、でない、できない気がするんです。やっぱり一人では、私が、わめいて、あがいて、何を言ったって、変わるんじゃないなど。逆にこちらが、のけ者にされて、ちょっと、一人、野原の一本杉みたいになって。そんな、気がしているんです。でも、正直、今年は幹事だったんですが、次々年度会長の年度になりますので、次年度、この 9 月から始まります、パート I から、もうすでに、いままで、出るそぶりも見せなかった人から、「出るよ。」と言って、くださって、非常にうれしかったです。この人は、経験も 20 何年も経験者ですから、こういう人を、あと 10 人くらいは、呼び込んでですね、良いクラブにするというのは、僕はそういうことだと思うんです。絶対に一人の力で引っ張っていったってね、国の総理大臣じゃあるまいし、できるわけないんで、だから、そういう思いをもって、この RLI の偉大さと、FT の力というものを、今後活かしていければなあと、そんな思いでおります。

青木 はい。矢野さんありがとうございます。松岡さん、どうですかね。クラブに。



松岡 はい。FT の資格を取ったからというわけではないのですが、一応、RLI に参加して、仲間が増えたことによって、次々とまあ、私のクラブの人たちも RLI に出ていて、仲間をつくって、地区の委員会に行く。来て、地区の委員会に出るということで、昔、一時期、木更津東 RC は、地区とかに行っているひとは、山田パストガバナーくらい。一人ぐらひしかいない。特異なクラブだったんですが、最近では、年間平均、4 人 5 人地区のほうに行くようになったというところで、FT の資格があったということよりは、参加して、仲間が増えたことによって、どんどん地区の委員会とか、いろんなところに、クラブのメンバーが、一人一人がいろんなところに、情報を得に行っているというふうになったことが、一番クラブに与えた影響が大きいのだなど、というふうに思っています。

青木 はい。松岡さん、ありがとうございます。そうしたら、坂下さん。坂下

さんの千葉東 RC は、結構、FT が多いクラブなんですけど、坂下さんにとって、
どういうふうなクラブに影響を与えたのか、教えて頂ければ。



坂下 今、青木さんが仰ったように、私を入れて、入会が浅い順に、逆に言うと、
受講してもらう人、結構送り込んでいるかなと、思います。できれば、幹事や
る前は、必ず RLI についてももらうように、したいなと、というふうに来年、会
長のときに、幹事をお願いしている人にも受けてもらって、というようにして、
クラブでこういうロータリーというものを、研修ではないと思うのですが、語
り合える場面というのは、基本的にはないのかなと。そこでやはり、こうい
った場を借りたなかで、このクラブのメンバーから、話し合いができると、と
いう場を、どんどんどんどん、すすめていきたいなと、というふうには、考
えてはいます。ちょっと、私が受けてみて、地区内とかで、RLI、あまり良いこ
とを言わない人が、いるということ、聞いたことがあるんですが、その違いと
いうのは、そういう意見が出るというのが、どういったことであるのかなとい
うふうには、ちょっとできれば、先輩の方々に、聞いてみたいなあと、とい
うところが、常々ちょっと、思っています。以上です。



青木 はい。坂下さんありがとうございます。それぞれですね、いろんなクラ
ブに、自分自身が、影響を与えてくれている RLI ということで、結構、RLI や
っている人というのは結構、ロータリーが好きになって、いる方が非常にまあ、
多いかなというふうな、思うのですが、今度はですね、他の地区に RLI に参加
したという方、こちらの、パネリストの方にいますので、周藤さんとか、松岡さん。
他の地区の RLI に参加して、気付いた点とか、良かった点とかを、そういった
点あったら、ちょっと教えて頂ければと思います。



周藤 あのう、私は、第 2530 地区の、福島の方の、RLI にパート II と、パー
ト III と、参加してきました。松岡さんも一緒でした。施設面でいうと、会場が、
公営のどこかの、トレーニングセンターのような場所で、非常に設備も、整っ
たところで、開催されていて、ハード面では、羨ましかったです。うちの地区も、
向こうの地区も、非常にフレンドリーですね、よしよしということで、受け
入れてくださって、みなさんと和気藹々とセッションを受けることができました。
あとは、そのなかで感じたことは、セッションの進め方が、第 2790 地区とは、
多少、異なっていたのかなあと。ということで、同じ RLI でも、進め方は地区
によって、少しずつ違うのかなと、というような印象を受けました。



青木 はい。周藤さん。ありがとうございます。そしたら、松岡さんも参加さ
れたということで、聞いてみたいと思います。



松岡 私はですね、周藤さんが言ったような、福島地区第 2530 地区に、参加したのと、最初行った、第 2590 地区の横浜・川崎地区に参加してきました。私は結構、木更津東 RC でやっていて、千葉県の RLI、出ただけで、「他のクラブ、こういうふうになっているんだ。」という、新しい発見があった。こういうふうには工夫すれば、やればよかったんだとか。というのを、知ることができたのが、さらに、他の地区では全然違ったり、ですね、例えば、例で言うと、米山のセッションで、米山の奨学生の数、千葉の場合は、30 名くらい。3 割 4 割なんだけれど、福島地区だと、6 割 7 割が、米山奨学生がいるとか、マスコミの関係者が、結構メンバーに、入っていて、広報。広報のセッションがあると思うんですが、そこは、この第 2790 地区とは、全く違うような、進んでいるような、やり取りだったりとか、福島でグローバル補助金を受け手でやっている。普通、たぶん、皆さんの認識では、諸外国に向けてグローバル補助金をやると思うのですが、福島は受け手でやったと。というような情報が、ウチの地区とかクラブにいただけでは、絶対に想定がつかないような、アイデアを、言ってもらえることがあって、非常に勉強になったなど、というのが、良い点で、悪い点は、やっぱり第 2790 地区でセッションに参加すると、リミットというか、やっぱり発言しちゃいけないんだろうな。って、思っちゃったりするんですが、他地区の場合は、好き勝手言えるので、(会場 笑) もっと本音に近い、セッションが、僕、後で、裏で聞いたら、第 2590 地区横浜・川崎地区では、RLI クラッシャーと、とんでもない発言ばかりするので、クラッシャーと呼ばれていますよ。と、裏から、(会場 笑) 聞いたことがあるくらい、好き勝手、やらせて頂いたと。そんな、良いのか、悪いのか、リミットは、外れて、もっと本質的な議論になると。というところが、私にとっては、良かったんですが、どうやら、向こうの地区によっては、困ったらしい。(会場 笑) そんな感じです。



青木 はい。松岡さん、ありがとうございます。そうしましたら、今度は、FT を取得して、今度人前で話す機会が増えると思うのですが、人前で話すのは、苦手なんだけれども、誰でもできるのか。とかという、ちょっと、質問を聞いてみたいと思うのですが、山本さん。どうですかね。人前で、話すのは、ちょっと苦手ですか。



山本 人前で話すのは、今でも苦手ですね。セッションが始まっても、やっぱり、人前で差していくというのが、ちょっと苦手だったんですが、RLI の場合は、好きとか嫌いとか、お構いなく、どんどん議論を進めていかないといけないんで、そんな嫌いなんて、言っていられないですね。嫌いでも、自分が向かないと思っても、どんどん会話をしていかないといけないので、好きも嫌いもないですね。前進あるのみです。(会場 笑)



青木 はい。ありがとうございます。山本さん。そうしたら、矢野さんは人前で話すのがたぶん得意（会場 大笑）だと思うんですが、苦手な人にアドバイスをお願い致します。



矢野 人前で、話さないのが、苦手です。（会場 大笑）人前で、いかにして、話さないで、人の話を聞き出す。これは、地獄の苦しみではあるのだけれど、非常に自分の自己鍛錬にはなるなというところですね。やっぱり、自分一人がねえ、俺が、俺が、と我を押し付けるのではなくてね、やっぱりそういうところが、直していかないという思いでは、FT って、非常に、良い経験をするんじゃないかなど。おそらくこのなかでも、話すのが好きな人がきつというんですよ。それが、話せないんですよ。こんな苦しい事ないですよ。（会場 笑）
とういことで、ございますね。はい。



青木 矢野さん、ありがとうございます。そうしたら次の質問にいきたいと思うのですが、
FT を取得したらですね、RLI に、毎回参加しなくては、いけないのか。と、聞かれることが多いかと思うのですが、坂下さん。その辺は、どんな感じか、話して頂いて、よろしいでしょうか



坂下 毎回、しなくても、良いと。思います。やはり、お仕事の都合、家庭の都合等、あったり、FT、結構人数いると思いますので、その辺、重荷にならない形で、参加していただくことには、なると思うので、毎回、毎回、MUST のように、考えにならなくとも、良いのかなと、思います。こんな感じで良いでしょうか？（会場 笑）

青木 はい。ありがとうございます。意外と、FT 取得すると、毎回 RLI パートシリーズを、参加しないといけないのかなと、というふうに、思う方、非常に多いので、実はですね、自分が取れる日程で参加してください。ということだけでも、実行委員会としては、非常にありがたい行為になりますんで。



矢野 すみません。発言、よろしいでしょうか今の坂下さんの意見とは、真逆になるかもしれませんが、きっとね、RLI 毎回到参加しなくてはいけないのか。じゃなくて、毎回、参加したくなるんです。（会場 おー。）これは、何故かという、皆さん方も、例えばクラブで例会って、日にちが決まっているから、そのときは、絶対に、こういうものがあるということ、することによって、毎回出るんです。同じことなんです。RLI だって、パート I II III と、3 回か、4 回、その日にちが決まっているわけですから、この RLI の魅力に取りつかれると、いけないのか。と、考える余地がないです。「行きたい。」これが、そういうことになると、思います。すみません。



青木 はい。ありがとうございます。そうしたら、あと5分くらいなので、最後にまあ、FTの取得をして、アドバイスを受講生に、ちょっとお話しして頂ければと思います。周藤さんのほうからですね、FT取得へのアドバイスを教えて頂ければと、思います。



周藤 皆さん、たぶん、誤解していらっしゃるかたも、多いかもしれませんが、FTの資格を取得するということは、ロータリーのエキスパートになるということとは、ちょっと次元が違うんですね。もしかすると、全部知っていないといけないから、FTはならない。という考えの方が、いるとしたら、その考えは、ちょっと、違いますよ。ということ、アドバイスしたいと思います。あくまでも、FTというのは、そのセッションのなかで、みんなで胸襟を開いてですね、思いの丈を話し合ってもらうための、役職。なので、自分が、全知全能ですね、全部を知っているから、「はい。何さん。この答えは、なんですか。」という形は、FTとは、いわないんですね。FTも一緒に考えるんですね。この仕事はなんですか。というよりも、さあ、こういう役目があって、あなた、役目を経験されて、どうでしたかね。という、感情的なことを、聞くというのがFTなので、専門知識、詳しい、詳しくないは、全く、時限の違うものだと、アドバイスしたいと、思います。是非、皆さん、FT受けてください。

青木 はい。周藤さん、ありがとうございます。山本さん。どうですか。



山本 自分がクラブに初めて入ったときに、すごく、「こんな社長がいるんだ。」とか、「こういう社長もいるんだあ。」と、いうことで、すごく、感動した覚えがあったんですね。それと同じ感動が、このRLIに出てきたときに、同じ感動がここに、ありました。「あっ。こんなすごい、社長が、いるんだ。」とか、「こういう先生も、いらっしゃるんだ。」とか、ですね、また、自分のクラブとはまた違う、ですね、素晴らしい人ばかりに、会いましたんで、RLIに出てくることで、またクラブとは違う、知り合いができるんですね。すごく自分にとっては財産だったんで、「出てきて良かったな」と。是非、皆さんにも、出て来て頂きなないと、そのように思いました。以上です。

青木 山本さん、ありがとうございます。矢野さん。どうですか。



矢野 短めに。まず、FT取得へのアドバイスですね。皆さん方、やっぱし、どうせやるなら、目一杯という言葉がございますように、どうせロータリアンになるんだったら、真のロータリーを目指しましょうと。いう、この熱い気持ちを、おそらく、みなさん持っておられるから、パートIパートIIパートIIIと、すすむにつれて、そして、卒後コース受けて、FT養成コースも受けて、FTになられて。そうだったと思うんです。おそらく、そういう人が一人でも、二人でも、



純度というのかな。ロータリアンとしての純度が、高く、パーセンテージが高くなればなるほど、素晴らしいロータリーの世界も、違ってくると思うのです。そして、自分たちの、私のクラブもそうですけど、クラブ自体の雰囲気も絶対に変わってくる。と、思うんですね。だから、そういう熱い思いをもって、今後、FTを目指すと。そういうふうな、熱い気持ちを持たれる事が、ロータリーそのものを成長させる。ロータリーという一つの、団体を、俺は、支えているんだと。というような、それぐらいの気持ちになるくらいに、なってくれば、素晴らしいロータリアンになっていくんじゃないかなと、そういう人が一人でも増えるんじゃないかなと、そういうふうな思いをもって、ちょっとアドバイスのには、そうなります。

青木 はい。矢野さん、ありがとうございます。松岡さん、どうですかね。



松岡 僕は、周藤さんがお話したように、FTをやるのに、知識がいるのか。というと、正直、要らないと思います。どちらかというと、知識がなければ、部屋のなかに、絶対に誰か、知識がある人がいるんです。だから、その人に答えてもらえば、いいんです。参加者もある。例えば、30年くらい経験されている方が、参加者としてくれば、その方に、教えてもらえばいいんです。だから、自分が先生みたく、全部知ったうえで、FTをやっているんじゃないなくて、知っている人をうまく、使うということで、ディスカッションがすすんでいくんで、知識がないからとか、勉強するのが大変だからとやりたくないといふのであれば、是非、やってみて頂けたらなと、というふうに思っています。僕から言うのは、是非、FTになって、議論が上手くなります。とか、考えずに、是非、ブラッシュアップだとか、パートシリーズの後に、一緒にご飯を食べに行きましょう。(会場 大笑) たぶん、そう思った方、あんだだけ、パートIIIの後の、懇親会が盛り上がっていたと思うのですが、あれを、たいてい僕は、あの辺にいて、飲んだり、食事に行きたそうにしていますので、是非、一緒に仲間になって頂いて、FT上手くやるとか、考えずに、一緒に、食事に行って頂けたらなと、というふうに思っています。是非、7月からあると思いますので、是非食事に行って頂きたいなと、思っております。そんな気軽にFTになって頂ければと、いうふうに思っています。よろしくお願い致します。

青木 松岡さん、ありがとうございます。最後に坂下さん。最後。



坂下 FTに、なってください。ということで、プレッシャーのように、皆さん、感じられているところも、あるのかなあと、思いますが、あまりそういうプレッシャーみたいなものを、感じられずに、参加して頂けるような、ことで考えて頂いたほうが、良いのかなと。最初から、力がこもった形で、やっちゃうと、皆さん、結構プレッシャーかかっちゃうと、思いますので、その辺、あまり深くは考えずに、参加しているというところは、あると思いますので、松

岡さんが言われたように、先生である必要がないとは思いますが、逆にこちらが、教えてもらっているところもあると思うので、その辺は、誤解されない形で、一緒にやっていたらいいなと、思います。以上です。



青木 はい。坂下さん。ありがとうございます。そうしましたら、2時半になりましたので、これでパネルディスカッションを終わりにしたいと思います。パネリストの5人、ありがとうございました。(会場 拍手 拍手)



A グループの様子



B グループの様子



C グループの様子



D グループの様子



閉講式

司会進行 RLI 推進委員会 委員 松岡 邦佳 (木更津東 RC)



御挨拶

RLI 日本支部 第 2790 地区代表ファシリテーター 梶原 等 (千葉 RC)

皆さん、こんにちは。最初から参加できずに、すみませんでした。遅れて参加をして、間違っ、青木さんのチームに入ってしまった（会場 大笑）話しが盛り上がったので、自分の部屋には行かず、最後までそこにいていました。（会場 大笑）セッションが、「ロータリーの歴史」そして「クラブを元気にしよう」ということで、楽しいセッション。また、いろんな意見が出てきて、この卒後コース、プロフェッショナルの皆さんなんで、とっても、中身の濃いですね、ロータリーの話ができたのかなと、というふうに思っています。今日の卒後コースが終わりますと、来月は、FT 養成コース。そして、9月からは、この吉田 理愛 RLI 推進委員長のもと、新年度の RLI の講座が始まります。この RLI を通してですね、皆さんは、自分たちのクラブや、またグループを越えて、地区内の色々な人たちとの交流、これが、このロータリーの、楽しみの一つになったということ、実感をされていると思います。是非、こういったことを、クラブの皆さんにお伝えをさせて頂いてですね、この RLI だけではありませんけれども、この RLI の研究会に来ると、いろんなヒントを頂けるし、また、自分の視野もどんどん広がるということで、ロータリーが、益々楽しくなってくるのかなというふうに、思っておりますので、是非、そういったことを、伝えてください。そしてまた、来月の、養成コースではですね、もっと楽しんで、会を盛り上げて行って頂きたいと思います。それともうひとつ、皆さんに報告をさせていただきますけれども、6月24日から、シンガポールで国際大会があります。このなかにも、参加をされる方、あるいは、参加をされない方もいると思いますが、なんと、国際大会の登録数が、アメリカを超えて、日本が、一番になったという、話しでございます。どうしてシンガポールの国際大会で、日本人の登録者がそこまで増えたのか、どうか、わかりませんが、なんとなく、日本のロータリーですね、ちょっと底力がでてきたことを、最近、なんとなく、感じております。ロータリー談義のなかでは、日本のロータリーの良さ。あるいは、国際ロータリーの現在の立ち位置だとか、いろんな分野から、ロータリーを観察して行って、そしてまた、自分のロータリーを導き出していただければ、良いのかなと。というふうに思っていますので、よろしくお願ひします。以上、挨拶とさせていただきます。今日は長い時間、大変お疲れ様でした。ありがとうございます。



ワンポイントアドバイス

RLI 推進委員会アドバイザー 海寶 勘一 (千葉西 RC)

皆さん、ワンポイントアドバイスという時間なのですが、今日、卒後コース、今までのパートⅠパートⅡパートⅢは、正式なプログラムではないのですが、理事会承認の、この RLI プログラムの、パートⅠパートⅡパートⅢを無事に終えることが、できまして、今日の卒後コースは、任意のプログラムです。それに、私も参加させて頂きましたけれども、皆さん、日頃の思いを、いかに、発揮されて意見交流ができたと思っております。また地区代表の、梶原さんも、そういうお話で、報告ありましたんで、そういうなかで、改めて疑問に思ったこととか、運営について、お聞きになってみたいということありましたら、ちょっと手を挙げてもらいたいのですが。

特にございません。

はい。ということです。(会場 拍手 拍手)

修了証書授与

RLI 日本支部 第 2790 地区代表ファシリテーター 梶原 等 (千葉 RC)

田中 一邦 (船橋南 RC)・松本 和城 (船橋 RC)・中野 陽介 (船橋みなと RC)・

田代 充 (八千代中央 RC)・水谷 義一 (白井 RC)・畠山 泰哲 (白井 RC)・藤田 奈緒 (白井 RC)・

中村 健太 (茂原中央 RC)・細田 伸一 (浦安ベイ RC)・佐藤 幸人 (浦安ベイ RC)・

伊藤 優花 (浦安ベイ RC)・船木 幹夫 (千葉港 RC)・藤井 謙逸 (習志野 RC)・

上田 かおり (柏西 RC)・菅原 裕輔 (東金 RC)・武藤 友和 (松戸東 RC)・

藤崎 康人 (成田コスモポリタン RC)・平山 秀樹 (成田 RC)・嶋野 壱平 (流山 RC)・

星本 慎児 (鎌ヶ谷 RC)・大木 英之 (千葉若潮 RC)・



諸事お知らせ RLI 推進委員会 東 孝俊 (千葉 RC)

皆さんお疲れ様でした。卒後コースが終わりましたので、

**次回、6月8日、土曜日 1時30分から FT 養成
コースを行います**

ので、是非、参加して頂いて、FT になっていただけたらと思います。この後、懇親会に行かれる方は、5時45分から、千葉駅前の「日本海」というところで、やりますので、交番の真向いになりますので、それに合わせて、少し時間が早いので、少しゆっくり目に、来て頂ければと思います。以上となります。お疲れ様でした。

卒後コース 修了者



田中 一邦 (船橋南)



松本 和城 (船橋)



中野陽介 (船橋みなど)



田代 充 (八千代中央)



水谷 義一 (白井)



島山 泰哲 (白井)



藤田 奈緒 (白井)



中村 健太 (茂原中央)



細田伸一 (浦安ベイ)



佐藤幸人 (浦安ベイ)



伊藤優花 (浦安ベイ)



船木 幹夫 (千葉港)



藤井 謙逸 (習志野)



上田 かおり (柏西)



菅原 裕輔 (東金)



武藤 友和 (松戸東)



藤崎康人 (成田 CP)



平山 秀樹 (成田)



嶋野 壱平 (流山)



星本 慎児 (鎌ヶ谷)



大木英之 (千葉若潮)

RLI 実行委員会

- 梶原 等 (千葉 RC)
海寶 勘一 (千葉西 RC)
清田 浩義 (千葉 RC)
周藤 行則 (浦安 RC)
青木 洋明 (千葉北 RC)
松岡 邦佳 (木更津東 RC)
東 孝俊 (千葉 RC)
神崎 誠 (成田 RC)
山本 衛 (松戸西 RC)
狩野 文夫 (船橋 RC)
吉田 理愛 (勝浦 RC)
大野 雅章 (千葉 RC)
矢野 憲治 (千葉中央 RC)
櫛田 仁一 (柏西 RC)
坂下 雅紀 (千葉東 RC)
手塚 隆雄 (千葉東 RC)
櫻井 宇人 (千葉 RC)
石引 美貴 (市川南 RC)